



トヨナカ アーツ トライブ #4 トランス ミュージック フェスティバル 2021 ー センセーションズ ー

身体器官の感覚が呼応する。これが、音楽を体験すること！
これぞまさに、センセーションズ！

開催趣旨

世界がこれまでとは全く違う状態にアップデートされてしまった“現代”において、アーティストと同一空間で“生”でアートを楽しむという行為自体、これまでとは全く違う意味合いを持つようになってきました。配信されものを片手に収まってしまうデジタルツールで、自分一人の世界の中で享受するのではなく、同一空間・同一時間で且つ五感すべてで感じるアート体験には、我々がそれでもなお表現し続ける本質があるのではないのでしょうか。

豊中市立文化芸術センターでは、2019年より「今を生きるアーティストとともに新しい芸術体験を創り出す」挑戦的シリーズ〈TOYONAKA ARTS TRIBE〉を進め、本年度も第4弾として、**TRANCE MUSIC FESTIVAL** を開催いたします。昨年度の全公演中止を受け、今回は3か月にわたり全4公演を実施する最大規模のイベントです。(1月28日開催予定の公演は新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期) コロナ禍という未曾有の国際的な危機、そして、私たちの生活・社会が普通に機能しなくなってしまうのではないかという恐怖のなかでも、わたしたちが生きていくうえで表現することとは何か。その探求を行います。

今回のテーマは、「世間が興奮し多大な関心を引き起こす/身体器官の感覚」という意味を持つ「**SENSATIONS (センセーションズ)**」です。出演アーティストもこれ以上考えられないメンバーが集結。まさに我々の感覚を直接刺激するような作品の数々に、ただの公演に収まらない、すべてが計算された、もはや一つの公演自体が一つの作品であるかのようなプログラムをお送りします。さらに、クラブミュージックの世界を堪能する「トランス・クラブ」が装いを新たに帰ってくることも決定いたしました。

このような状況だからこそ、体感すべき音楽体験がここにある。生のダイレクトにとどく音楽表現の神髄。豊中市立文化芸術センターの挑戦的シリーズ、今後の芸術・表現の未来をしめすプログラムにどうぞご期待ください。

開催情報

**トヨナカ アーツトライブ #4 トランス
ミュージック フェスティバル 2021
ーセンセーションズー****① ピアノとパーカッションのTRANCE - in Search Of the Lost () -**開催日時 **公演延期 2021.1/28 ▶▶▶ 2022.1/21**

会場 豊中市立文化芸術センター 小ホール

出演 中川賢一、宮本妥子

② 時間のTRANCE - NINETY MINUTES -

開催日時 2021年2月20日(土) 開場14:30/開演15:00

会場 豊中市立文化芸術センター 展示室

出演 黒田亜樹、大石将紀、有馬純寿

③ レガシーのTRANCE - KONTAKTE -

開催日時 2021年3月6日(土) 開場15:30/開演16:00

会場 豊中市立文化芸術センター 小ホール

出演 中川賢一、宮本妥子、有馬純寿

サントリー芸術財団推薦コンサート

④ クラブミュージックのTRANCE - トランス・クラブII -

開催日時 2021年3月6日(土) 開場17:30/開演18:00

会場 豊中市立文化芸術センター 展示室

プロデュース 久保田テツ

主催 豊中市市民ホール指定管理者

助成 **NOMURA 野村財団**

チケット 全席自由 ①④ 各 一般 2,000円/club CaT 1,800円/学生 1,500円

②③ 各 一般 3,000円/club CaT 2,700円/学生 2,000円

4公演セット券 一般 8,000円/club CaT 7,600円/学生 6,000円

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※障害者割引あり。障害者とその介助者(1名まで)2割引。

(豊中市立文化芸術センター・ローズ文化ホールのみ取扱)

※小ホール車いす席は、文化芸術センターチケットオフィス窓口・電話のみ取扱。

発売日 club CaT 先行販売期間 2020.10/8(木) - 10/14(水)

一般発売日 2020.10/15(木) -

販売場所 豊中市立文化芸術センター チケットオフィス 06-6864-5000 (10:00~19:00月曜・年末年始休館)

オンラインチケット <http://www.toyonaka-hall.jp/ticket/>

豊中市立ローズ文化ホール窓口 (火曜・年末年始休館)

ローソンチケット <http://l-tike.com> 【Lコード:53756】

企画コンセプト

はじめに

様々な文化や価値観があふれる現代社会において、多様な文化芸術の保護及び発展を図っていく事が現代では求められています。このため、豊中市立文化芸術センターでは、音楽分野においてクラシック音楽というカテゴリーに固執するのではなく、これまでになかった表現、芸術的価値を提供している現代を生きる作曲家、アーティストの作品を取り上げ、共に制作し紹介する事で、新たな文化・芸術的視点を広げる事を目的としたシリーズを2019年3月よりスタートいたしました。アーティストたちが活躍でき、彼らの自主性、創造性が十分に尊重され、さらには能力を存分に発揮できる場を提供するために継続して実施しています。

前回実施予定であったTRANCE MUSIC FESTIVAL 2020は、新型コロナウイルスの影響ですべてのイベントが中止となった中で、今回TRANCE MUSIC FESTIVAL 2021を過去最大規模で実施いたします。

アーティストたちが活躍できる場を豊中市立文化芸術センターに作りだし、さらに今まで知らなかったアートを追求できる市民・聴衆を育てていく事で、様々なアートを楽しむ環境づくりを一つの使命として取り組む。豊中市立文化芸術センターの挑戦的プログラムシリーズにどうぞご期待ください。

TOYONAKA ARTS TRIBE とは

デジタル化された音楽や映像をネットを介して誰もがどこでも気軽に見れる時代。そんな時代だからこそ、一つの作品を他者と共有しながら同空間で体感するという行為はこれまで以上に「特別」なものとなってきています。TOYONAKA ARTS TRIBEは、今を生きるアーティストの作品上演を中心にこの「特別」な空間を作り出す、豊中市立文化芸術センターの挑戦的プログラムの総称です。

TRANCE MUSIC FESTIVAL とは

2019年3月1日に始動したノーボーダーの音楽イベント。通常の間奏クラシックコンサートからは距離を取り、空間全体を音楽と共にコンポジットし、その時間だけでしか体験できない空間をつくりだす。全体テーマを「TRANCE」とし、古来より人々の生活に密着してきた音楽を、この「TRANCE」というフィルターを通して本質に探ることを目的としている。TRANCE MUSIC FESTIVAL 2019では、「クラブミュージック」「現代音楽とダンス」「ガムラン」の3公演を実施した。TRANCE MUSIC FESTIVAL 2020は、新型コロナウイルスの影響で全公演キャンセルとなった。

2021年度 コンセプトテーマ

- SENSATIONS -

SENSATION

- 【名】1. 感覚、知覚 2. 気持ち、感じ 3. 興奮、感動
4. センセーション（を起こすもの）、世間を沸かせるもの

公演延期 2021.1/28 ▶▶▶ 2021/21

開場18:30/開演19:00

ピアノとパーカッションのTRANCE「in search of the Lost ()」

ピアノとパーカッション、それに加わる電子音の共演。音が支配するトランスの世界。ピアノの繊細な音から爆裂するかの如くパワーをもった音。パーカッションの芯から震えるような音と叫び。失われた()を求めて、小ホールにつくりだす唯一無二の空間を旅する公演。テーマを基に選ばれた作品を、ただ羅列して上演するのではなく、ホールの中に一つの世界観をつくりだし、リサイタルとは違った演出方法でオーディエンスを空間に没入させることで、より作品世界へと誘います。

注目は、フランスの電子音楽で知られる作曲家で、世界中で多くのファンを持つリュック・フェラーリの《Cellule 75》。本作は、まさに、電子音との共演がすさまじい作品。ミニマルミュージックの要素とフリージャズスタイルのようなパートが聴衆と、そしてパフォーマーをトランスへと誘います。その他、パーカッションの傑作《マトルズダンス》や、カーゲルの一度聴いたら忘れることのできない《MM51》を演奏予定。



1.中川賢一 ©Shuhei NEZU

【出演】中川賢一、宮本妥子

【プログラム】

- L.フェラーリ：Cellule 75
- J.ササス：マトルズダンス
- ヤコブTV：The Body of your dreams
- J.ササス：マトルズダンス
- P.シェフェール：Bilude
- M.カーゲル：MM51

※作品は予告なく変更になる場合がございます。



2.宮本妥子

アーティスト紹介

中川賢一

桐朋学園音楽学部ピアノ専攻卒業。同時に指揮も学ぶ。卒業後渡欧し、ベルギーのアントワープ音楽院ピアノ科を首席修了。在学中にフォルテピアノ、チェンバロも習得。1997年オランダのガウデアムス国際現代音楽コンクール第3位。ヨーロッパ国内外の様々な音楽祭に出演、日本ではサントリーサマーフェスティバル、東京の夏音楽祭、武生国際音楽祭、仙台クラシックフェスティバルに度々参加。NHK-FM、NHK-BS、NHKクラシック倶楽部などに多数出演、新作初演も多い。ダンスと音楽など他分野とのコラボレーションを行う他、「Just Composed in Yokohama 2003」、「超難解音楽祭」(仙台)音楽監督・プロデュースなども行った。ピアノ演奏とトークを交えたアナリーゼ等を展開。クラングフォルムウィーン、ムジークファブリーク、アンサンブルルシルシュ、アルテルエゴなどを指揮、アルディッティカルテットやバーバラ・ハンニガン、イェルーン・ペルワルツ等と共演する他、アンサンブル・モデルンとのコラボレーションは話題を呼んだ。メシアンピアノ曲全曲演奏、ケージ「ソナタとインターリュード」、ジェフスキー「不屈の民変奏曲」、リュック・フェラーリピアノ作品集演奏会、武満徹ピアノ曲全曲等数多くを演奏し、各方面から好評を得ず。東京室内歌劇場、東京フィル、仙台フィル、広響他と指揮で共演。現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ノマド」のピアニスト、指揮者。お茶の水女子大学、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。

公式ホームページ <http://www.nakagawakenichi.jp>

宮本妥子

クラシック、現代音楽の領域にとどまらず、コンテンポラリーダンス、邦楽器、など他の芸術との融合を展開し、独創的な世界観を生み出し続ける。同志社女子大学学芸学部音楽学科打楽器専攻卒業、ならびに同大学音楽学会《頌啓会》特別専修課程修了。ドイツ国立フライブルク音楽大学大学院を経てソリスト科を首席最優秀にて修了。ドイツ国家演奏家資格(konzertexamen)首席取得。数々の国際コンクールで入賞、優勝。滋賀県文化奨励賞、2001年平和堂財団芸術奨励賞を受賞。これまで世界10カ国以上の現代音楽祭でソリストとして招待演奏するなど欧米各地で高い評価を得る。帰国後、(財)地域創造の公共ホール音楽活性化事業協力アーティストとして、全国各地でのアウトリーチ活動を行う。若手音楽家育成プログラム・創造型こども音楽プログラムなどのプロデュース、CD制作「Dear」「空想〜千夜一夜」などクオリティの高さが話題と称賛を呼んでいる。現在は滋賀県立石山高等学校音楽科、相愛大学・同大学院非常勤講師、同志社女子大学嘱託講師を務めるなど、多方面で活躍。パール・アダムスモニターアーティスト。<http://www.yasukomiyamoto.com/>

2021
2/20

開場14:30/開演15:00

時間のTRANCE – NINETY MINUTES –

TRANCEをテーマにセレクトした20世紀以降の作品を90分間ノンストップで演奏。演出された時間を空間の中で楽しむという行為自体が一つの作品であるというコンセプトを持つアトラクション的コンサート。

注目は、大活躍を続ける稀代の若手作曲家坂東祐大と「FUJI ROCK FESTIVAL'20 LIVE ON YOUTUBE」の新人枠ROOKIE A GO GOへの出演経験もある今大注目のアーティストPause Cattiによる共作（新作委嘱）。さらに、ライヒの代表作エレクトリック・カウンターポイントのサクソフォン版や佐藤聡明によるピアノのトレモロ音のみによる《リタニア》をはじめ、全感覚が刺激される90分を存分に体感できるプログラムです。

【出演】黒田亜樹、大石将紀、有馬純寿

【プログラム】

G.フィットキン：ハード・フェアリー

佐藤聡明：リタニア

杉山洋一：五重奏（アフリカからの最後のインタビュー） [トリオ版]

足立智美：The Rise of The Saxophones for alto saxophone and video

S.ライヒ：エレクトリック・カウンターポイント
(サクソフォン版)

ヤコブTV：この無上の喜びが終わらないように

坂東祐大×Pause Catti：委嘱新作初演 他

※作品は予告なく変更になる場合がございます。



3.黒田亜樹©HIJIKI



4.大石将紀



5.有馬純寿©Hiroyuki Matsukage

アーティスト紹介

黒田亜樹

東京藝術大学卒業後、イタリア・ベスカラ音楽院高等課程を最高位修了。

フランス音楽コンクール優勝。ジローナ20世紀音楽コンクール現代作品特別賞受賞。現代音楽演奏コンクール優勝、朝日現代音楽賞受賞。卓越した技術と鋭い感性は作曲家からの信頼も高く、「ISCM世界音楽の日々」「現代の音楽展」「サントリーサマーフェスティバル」「B→Cパッパからコンテンポラリーへ」など、主要な現代音楽演奏会にて内外作品の初演を多数手がける。2013年バンドネオン奏者の小松亮太氏とともにピアノラ作曲オペラ『ブエノスアイレスのマリア』を、ピアノラ元夫人で歌手のアメリカ・バトルを迎え完全上演し話題を呼んだ。国外ではサルデーニャのSpazio Musica現代音楽祭でブソッティ作品の初演、バルマのレージョ劇場でキース・エマーソンの代表作「タルカス」を現代作品として蘇演、シチリアのエトネ音楽祭出演などイタリアを中心に活動。2014年アメリカのオドラデクレベルより「火の鳥」～20世紀音楽ピアノのための編曲集リリース。イギリスBBCミュージックマガジンで5つ星を獲得、レコード芸術誌特選盤となる。「東京現音計画」メンバーとしてサントリー芸術財団2014年佐治敬三賞受賞。ピアノ演奏法の優れた教師としても知られ、国際コンクールの上位入賞者を多数輩出している。ベスカラ音楽院教授。

大石将紀

東京藝術大学卒業。同大学院修了後渡仏、パリ国立高等音楽院・大学院修了。02～04年まで文化庁派遣芸術家海外研修員として研鑽を積む。在仏中は、ダヴォス国際音楽祭（スイス）等の音楽祭、ボンビドーセンターやルーブル美術館（共にパリ）のプロジェクトに参加。08年に帰国し東京オペラシティ財団「B→C」に出演。朝日新聞誌上などで高い評価を得た。以降エレクトロニクス作品・映像・パフォーマンスを取り入れた自主リサイタルや、サントリー・サマーフェスティバル、東京オペラシティ財団・コンポーザム、武生国際音楽祭などの出演、TV、ラジオへの出演、TVCMやドラマ、映画の劇版の録音、雑誌への連載執筆、(一財)地域創造の支援アーティストとして地域交流プログラムを展開するなど、幅広い活動を展開。14年所属する現代音楽グループ「東京現音計画」で第13回サントリー芸術財団佐治敬三賞受賞。15年に「NO MAN'S LAND Masanori Oishi plays Jacob TV」をジパングレーベルより、また18年「SMOKE JAPANESE SOLO SAXOPHONE WORKS」(レコード芸術誌特選盤、令和元年度文化庁芸術祭優秀賞受賞)をオドラデクレベルより日本、アメリカ、ヨーロッパにてリリース。現在、大阪音楽大学特任准教授、東京藝術大学、洗足学園音楽大学講師、エリザベト音楽大学特別講師としても後進の指導も当たる。セルマーアーティスト。

有馬純寿

1965年生まれ。エレクトロニクスやコンピュータを用いた音響表現を中心に、ジャンルを横断する活動を展開。ソリストや室内アンサンブルのメンバーとして「サントリーホール サマーフェスティバル」「コンポーザム」などの現代音楽祭をはじめ数多くの演奏会で電子音響の演奏や音響技術を手がけ高い評価を得ている。第63回芸術選奨文部科学大臣新人賞芸術振興部門を受賞。2012年より国内外の現代音楽シーンで活躍する演奏家たちと現代音楽アンサンブル「東京現音計画」をスタート、その第1回公演が第13回佐治敬三賞を受賞した。東京シンフォニエッタメンバー。

現代音楽作品の電子音響の演奏以外では、一柳慧、湯浅譲二、杉山洋一をはじめとする作曲家との共同作業や、スガダイロー、石若駿などジャズミュージシャンや、国内外の実験的音楽家とのセッションも積極的に行っている。また、会田誠、小沢剛らとの「昭和40年会」をはじめ美術家とのコラボレーションも多く、「瀬戸内国際芸術祭2013、2016」に参加し、香川県県木島にてインスタレーションの展示やワークショップなどを行ったほか、2019年10月にはソウルにて韓国の同世代の美術家たちとのプロジェクト「50|50」を行った。

現在、帝塚山学院大学リベラルアーツ学科准教授。京都市立芸術大学非常勤講師。

公演プログラム

小ホール 展示室

2021
3/6 開場15:30/開演16:00

レガシーのTRANCE – KONTAKE –

シュトックハウゼンが作曲した伝説的な作品《KONTAKTE》。本作の演奏を熱望した3人のアーティストによる究極のTRANCE。作品が生み出す計算されつくした音のグルーブを堪能します。

《KONTAKTE》は、シュトックハウゼンならではの高度に練り上げられた構造の上で、音が時に波のように、時に空気のように様々な形で降りかかってきます。理論ではなく、言葉のままに音楽の世界に没入する事で、作品の面白さを真に体験することができます。

また、演奏者自身の集中力や負担、パフォーマンスは計り知れるものではなく、これはまさに録音されたデータや映像でみるのではなく、実際に現場で体感する音楽でもあるのです。

日本でも、なかなか出会うことのない作品であり、演奏を熱望した3人だからこそ繰り広げられる《KONTAKTE》。

このあまりにも貴重すぎる公演をお聴きのがしなく。

【出演】 中川賢一、宮本妥子
有馬純寿

【プログラム】
S.ライヒ：フォー・オルガンス
K.シュトックハウゼン：コンタクテ



6.中川賢一 & 宮本妥子



7.有馬純寿©Hiroyuki Matsukage

2021
3/6 開演18:00

クラブミュージックのTRANCE – トランス・クラブⅡ –

本イベントを締めくくるのは、展示室をクラブ空間に見立て、音楽体験空間を創り出す一夜だけの特別イベント。2名のDJによる時間と、フリースタイルバトルをなどで、日本においても一気に今まで以上のブームとなっているラップの世界を展示室の空間をフルに使って演出します。

contact Gonzoから三ヶ尻敬悟がDJ、塚原悠也が映像として出演が決定。

※当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止策をとって、客席エリアもいろいろな制限の元での上演となります。通常のクラブハウスのような雰囲気とはまた違った、この時世ならではの「トランス・クラブ」をお楽しみください。

【出演】 DJ : 三ヶ尻敬悟(contact Gonzo)
映像 : 塚原悠也(contact Gonzo)
プロデュース : 久保田テツ 他



8.久保田テツ



9.2019年3月1日実施した「トランス・クラブ」公演の様子

プロデューサー紹介

久保田テツ

1995年よりシンクタンク勤務し、都市空間におけるアートプロジェクトのメセナ事業運営に携わる。大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD) 特任准教授を経て、本学准教授に就任。CSCDでは主に映像メディアデザインとコミュニケーションに関する教育研究、映像ドキュメンテーション実践、アートを軸とした社会学連携事業などに取り組む。また、映像作家および音響作家としても活動中。2000年度より早稲田大学メディアネットワークセンター(現グローバルネットワークセンター) 非常勤講師。NPO remo [特定非営利活動法人記録と表現とメディアのための組織] 理事。

豊中市立文化芸術センター（豊中市市民ホール 指定管理者）

〒561-0802 大阪府豊中市曽根東町3-7-2

TEL：06-6864-3901（火～日 9:00～20:00 月曜休館）

<http://www.toyonaka-hall.jp/>

公演内容・取材について

e-mail: inoue@toyonaka-hall.jp

担当：井上

・電車でお越しの場合

阪急宝塚線「曽根」駅より東へ約300メートル 徒歩約5分

・駐車場

地下（有料）75台

初めの30分は無料。その後30分毎100円。



9.チラシ

画像使用についての注意

- ・このプレスリリースに掲載されている画像データを広報用にお貸し出いたします。末尾の「申込書」をご使用ください。
- ・画像を媒体掲載される際には、「申込書」に画像とともに送りするクレジット等を、必ずご記載願います。
- ・画像データ使用は、公演終了までとさせていただきます。
- ・画像の二次利用や転載はお断りいたします。
- ・基本情報・画像キャプションなどの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階で担当者までメールまたはFAXにてお送りください。
- ・本公演に関する記事をご掲載いただきました際には、掲載出版物または録画メディアを担当者に送付願います。
- ・インターネットに掲載した場合は、URLをお知らせください。

広報画像申込書

TOYONAKA ART TRIBE #4

トランスミュージック フェスティバル 2021 ーセッションズー

2021年1月28日（火）／2021年2月20日（土）／2021年3月6日(土)

※ご希望の画像の番号に○をつけてください。

1 中川賢一 ©Shuhei NEZU

2 宮本妥子

3 黒田亜樹 ©HIJIKI

4 大石将紀

5 有馬純寿 ©Hiroyuki Matsukage

6 中川賢一 & 宮本妥子

7 有馬純寿 ©Hiroyuki Matsukage

8 久保田テツ

9 公演の様子

10 チラシ

※媒体情報についてお知らせください（全てご記入願います）。

媒体名：

掲載・放送予定日：

貴社名：

部署名・ご担当者名：

所在地： 〒

Email：

TEL：

FAX：